

さくらほっと NEWS

vol.72 令和8年秋号

治療抵抗性高血圧に対する腎デナベーション治療 — 名古屋市大病院が東海北陸地方で初の実施施設に —

高血圧は動脈硬化を促進し、脳卒中や心筋梗塞の原因となることが広く知られています。日本には現在約4,300万人の高血圧患者が存在し、そのうち5~10%は標準的な治療を行っても十分な降圧が得られない「治療抵抗性高血圧」とであると報告されています。

腎デナベーションは、治療抵抗性高血圧の主な原因である交感神経の過剰な働きを抑制する新しい治療法です。専用のカテーテルを用いて腎動脈の内側から周囲の交感神経を焼灼することで、血圧の低下を図ります。メスを入れないカテーテル治療ですので、体への負担が少ないという特徴があります。これまで高血圧治療は主に薬物療法や生活習慣改善が中心でしたが、腎デナベーションはそれらに加わる新たな選択肢として、たいへん注目されています。

本治療の実施には厳格な施設基準を満たす必要がありますが、当院は全国で2施設目、東海北陸地方では初の承認施設となりました。2026年4月末にはこの地方で初の治療を実施し、無事成功しております。今後も確実かつ安全な治療を継続し、地域医療への貢献に努めてまいります。高血圧についてお困りの方は、ぜひ循環器内科へご相談ください。



Symplicity Spyral腎デナベーションシステム/Medtronic社



さくら基金へのご寄附ありがとうございます

名古屋市立大学病院では、「笑顔と感動」への架け橋として役立てることを目的として「さくら基金」を設置しております。

皆様から寄せられた寄附金は、患者さんはもちろんのこと、職員等の当院に携わる方の視点も取り入れながら医療の充実を図るために活用させていただきます。

何卒、当さくら基金設置の趣旨をご理解いただき、ご寄附のお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。

令和7年度は、屋上庭園および病院周辺の植栽管理をはじめ、給食用食器、オンライン資格確認端末、車椅子、ナースカートの購入等に活用させていただきました。

皆様のご理解・ご協力に厚く感謝申し上げます。

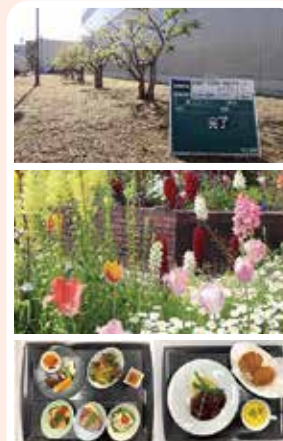
さくら基金についてのお問い合わせ先

経営課経営係さくら基金担当

Tel:052-858-7112(直通)

受付時間 月曜日から金曜日の
午前9時から午後5時まで

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/for-patient/sakurafund/>



救急災害医療センターへリポート

- 救急災害医療センターの医療体制強化 2
- 救急車寄贈に伴う感謝状贈呈式を開催しました ... 2
- 医師×管理栄養士でつくる病院食
～救急災害医療センター開棟記念メニュー～ ... 2
- 名古屋市大病院のチカラ Vol.40 3
- 治療抵抗性高血圧に対する腎デナベーション治療
— 名古屋市大病院が東海北陸地方で初の実施施設に — ... 4
- さくら基金へのご寄附ありがとうございます ... 4

救急災害医療センター開棟記念 医学教育発展を願う植樹式を開催

令和8年5月28日に、救急災害医療センター前のさくら広場にて植樹式が催されました。医聖ヒポクラテスとその木陰で弟子達に講義したとされる「ヒポクラテスの樹」にルーツを持つプラタナスの若木を2本と、長年に渡り薬学研究者の間で受け継がれてきた「酔芙蓉」の苗木2本を植樹しました。式典では、片岡医学研究科長を中心に医学科、看護学専攻、薬学科、リハビリテーション学専攻の学生らが伝統ある「ヒポクラテスの誓い」を唱和し、参列した大勢の学生、教職員、来賓とともに本学の医学教育の発展を願いました。



救急災害医療センターの医療体制強化

令和8年6月1日に救急災害医療センターが開棟し、地域の救急医療体制のさらなる強化を図っています。その取り組みの一環として、重症患者への早期医療介入を目的にドクターカーの24時間365日運用を開始しました。これにより、昼夜を問わず医師・看護師・救急救命士が救急現場へ出動し、高度な医療を迅速に提供できる体制を整えています。

また、大規模災害や広域搬送に備え、消防ヘリコプターの離着陸訓練を実施しました。関係機関との連携強化や受入手順の確認を行い、災害時においても円滑な医療提供が可能となるよう準備を進めています。

今後も地域の皆さまに安心していただける救急・災害医療の充実に努め、より質の高い医療の提供を目指してまいります。



消防ヘリ離着陸訓練で実際に搭乗する医師・看護師

救急車寄贈に伴う感謝状贈呈式を開催しました



このたび、地域医療の充実に役立ててほしいとのご厚意から、近隣市民の方より救急車をご寄贈いただきました。これを受け、感謝の意を表するため感謝状贈呈式を開催し、理事長から感謝状をお贈りしました。

寄贈いただいた救急車は、平時は救急患者搬送用、災害時は医療支援に活用するなど救急医療活動に活用し、地域の皆さまへより迅速で質の高い医療を提供するために役立ててまいります。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

医師×管理栄養士でつくる病院食 ～救急災害医療センター開棟記念メニュー～

今回、救急災害医療センターの開棟を記念し、祖父江センター長と管理栄養士が共同で記念メニューを考案しました。センター長の好物である酢豚をもとに、「夏らしさ」や「食べやすさ」にこだわり、調理師とともに何度も試作を重ねて完成したのが『彩り夏野菜と揚げ豚の黒酢炒め』です。かぼちゃのやさしい甘みとれんこんの食感が、黒酢のまろやかな酸味を引き立てる彩り豊かな一皿に仕上がりました。

当院では、医師・管理栄養士・給食会社の調理師が力を合わせて「食事も治療の一つ」と考えた食事づくりに取り組んでいます。これからも、食べる楽しさを感じていただける病院食をお届けしていきます。



名市大病院のチカラ Vol.40

消化器内科

内視鏡治療の限界に挑み、根治を追求する

内視鏡機器や診断技術の進歩、検診の普及により、消化管腫瘍の早期発見が増加し、内視鏡治療の役割はますます重要となっています。また、超高齢社会の進展に伴い、低侵襲で臓器機能を温存できる内視鏡治療へのニーズも高まっています。

一般に、転移のリスクが極めて低い腫瘍が内視鏡治療の適応となります。しかし、腫瘍の大きさや形態、発生部位によっては技術的な難易度が高く、内視鏡治療が困難と判断される症例も少なくありません。

当院では、最先端の内視鏡治療法に独自の治療戦略と豊富な経験を融合し、技術的な理由による治療断念を極限まで減らすことを目指しています。「早期腫瘍を内視鏡で治しきる」ことにこだわり、巨大腫瘍や治療後再発病変など、他施設で治療困難と判断された症例を数多く受け入れています。

特に高難度の十二指腸腫瘍に対する内視鏡治療には積極的に取り組んでおり、全国有数の治療実績を有しています。また、粘膜下腫瘍に対す

る腹腔鏡・内視鏡合同手術や、咽喉頭腫瘍に対する内視鏡的切除など、消化器外科や耳鼻咽喉科との密接な連携のもと、低侵襲かつ高度な集学的治療を提供しています。

今後も地域における高度内視鏡治療の最後の砦としての役割を果たすべく、スタッフ一同さらなる研鑽を重ね、安全かつ質の高い内視鏡診療を提供してまいります。

消化器内科 部長 片岡洋望
副部長 志村貴也



緩和ケアセンター

全人的苦痛を軽減しQOLを向上する

緩和ケアセンターは、様々な職種が協力して、その専門性を活かしたチーム医療を提供しています。患者さんの身体の症状を和らげることの専門家である緩和ケア医、患者さんのこころのケアにあたる精神腫瘍医、患者さんの看護を専門に学んだ看護師、経験豊富な薬剤師、理学療法士、公認心理師など様々なスタッフが揃っており、必要に応じて、ソーシャルワーカーや栄養士なども医療チームに加わります。たとえば、身体が痛い、息苦しい、だるい、吐き気が続くなどの身体の症状や、よく眠れない、あれこれ心配で落ち着かない、不安で胸が苦しくなる、気持ちがふさいでつらいなど気持ちの症状などでつらく感じられる時には遠慮なくご相談ください。がんの種類や広がりに関わらず、また現在がん治療を受けて

おられるかどうかに関わらず、皆さんがお困りの症状を少しでも和らげることができるよう専門の医療スタッフがチームで診療します。患者さんのみならずご家族もケアの対象となります。また、呼吸不全や心不全に加えて腎不全の患者さんの心身の苦痛についても診療しております。

